

第1学年 音楽科学習指導案

日時 令和3年11月5日（金）5校時

学級

授業者

1 題材名 「赤とんぼ」の歌詞が表す情景や作者の心情を思い浮かべ、旋律や強弱との関わりを考え、表現を創意工夫して歌おう

2 題材の目標

- (1) 「赤とんぼ」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付ける。
- (2) 「赤とんぼ」の旋律や強弱を知覚し、それらが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、「赤とんぼ」にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。
- (3) 「赤とんぼ」の歌詞が表す情景や心情及び曲の表情や味わいに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組む。

3 題材について

(1) 教材観

本題材は、学習指導要領に示された指導事項のうち、第1学年の内容 A表現(1)歌唱 ア歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、歌唱表現を創意工夫すること、イ(ア)曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わり、ウ(ア)創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能、[共通事項](1)ア「旋律、強弱」にかかわるものである。

今回取り上げた「赤とんぼ」は、中学校共通教材[心の歌]に指定されており、日本で長い間歌い継がれてきた童謡の一つである。この曲の歌詞は、作詞者の三木露風自身の幼いころの実感に基づいて作詞された。「現実から回想へ→回想→回想の深まり→再び現実へ」と、1～4番にかけて移り変わっていき、「赤とんぼ」や「姐や」など、歌詞を紡ぐ様々な言葉から、たくさんのイメージを想起することができる。

また、山田耕作の作った美しい旋律は大変叙情的で、広く国民に親しまれてきた。日本語の抑揚と旋律の動きが関連している点や、きめ細かく指定された強弱記号が特徴的である。様々な要素を合わせることで、自分なりに表現を深めやすい題材である。

(2) 生徒観

生徒は、4月から前向きに歌唱活動に取り組んできた。歌詞に関して意味や考えを深めることも積極的に行ってきた。しかし、自分の考えや想いを演奏に反映させることを苦手としている。自分なりにイメージを持つことはできるが、それらを踏まえ、曲にふさわしい演奏表現の創意工夫をすることには至っていないことが多い。

(3) 指導観

本題材のねらいは「赤とんぼ」を形づくっている旋律や強弱と、曲想との関わりを感じ取り、曲にふさわしい音楽表現を創意工夫する資質・能力を育てることである。教材曲の「赤とんぼ」は、歌詞の内容と音楽の諸要素が深く結びついていることで、演奏表現の工夫にたどりつきやすいと考える。

今回はまず、歌詞の内容を深く見つけ、その後、音楽とどのような関わりがあるか、グループ活動を通

して考えていく。それをもとに、曲にふさわしい音楽表現を創意工夫する力を育てていく。

思考・判断・表現に関する評価は、演奏によっても評価を行うが、その表現に至った理由を確認するためや、創意工夫しても発表だけでは表しきれない可能性も考え、ワークシートでの評価もしていく。

(4) 研究主題との関わり

本校の研究主題は、「対話的な学びを通じた確かな力の育成～コミュニケーション能力向上の取組を基盤として～」である。グループ活動で、自分の考えと他者の考えを比較・交流する場面を設定し、それを踏まえて曲にふさわしい音楽表現を創意工夫する資質・能力の育成を目指していく。交流の際には、意見発表に留まることなく、お互いの考えを生かし、自身の演奏につなげられるような話し合いになるよう声掛けをする。

4 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 「赤とんぼ」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解している。 技 創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付けている。	思 「赤とんぼ」の旋律、強弱を知覚し、それらが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、「赤とんぼ」にふさわしい歌唱表現を創意工夫している。	態 「赤とんぼ」の歌詞が表す情景や心情及び曲の表情や味わいに興味を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。

5 指導と評価の計画（全2時間）

学習活動		評価規準・評価方法		
第1時	○「赤とんぼ」の旋律の特徴と、歌詞の内容を理解し、表現を工夫しよう。 ・「赤とんぼ」の音程を覚える。 ・旋律の上昇・下降、言葉の抑揚との関わりについて理解する。 ・歌詞の内容を理解する。 ・1番の歌詞の音楽表現を考える。	知 〈発言・ワークシート〉		
第2時 (本時)	○旋律、強弱に注目し、「赤とんぼ」にふさわしい表現を考えて歌おう。 ・歌詞の内容を踏まえ、曲にふさわしい表現を個人で考え、グループで交流する。 ・自分なりに工夫した表現で演奏する。	技 〈演奏〉	思 〈観察・発表・ワークシート〉	

6 本時の指導（2／2時間）

(1) 本時の目標

「赤とんぼ」の旋律、強弱に注目し、ふさわしい表現を考えて歌おう。

(2) 本時の評価規準

	B おおむね満足できる	C 努力を要する生徒への支援の手立て
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・旋律、強弱を知覚し、それらが生み出す特質や雰囲気を感じている。 ・自分なりに「赤とんぼ」の歌唱表現を創意工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・知覚・感受を苦手とする生徒には、グループでの交流や、ほかの曲を例として挙げる、などの手立てをとる。 ・歌唱表現を創意工夫することが苦手な生徒には、既習の曲ではどのように表現したか思い出させ、創意工夫のヒントを与える。

(3) 本時の展開

	学習活動	指導と評価の留意点
導入 (5分)	<ol style="list-style-type: none"> 1 前時の内容の確認をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・歌詞の内容を確認する。 ・1～4番までを通して歌う。 2 本時の学習課題を把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: fit-content;"> 「赤とんぼ」の旋律、強弱に注目し、表現を創意工夫して歌おう。 </div> 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時にまとめた歌詞の意味を共有する。
展開 (40分)	<ol style="list-style-type: none"> 3 Aの演奏とBの演奏を比較聴取し、それぞれについて、自分の考えを持つ。 <ul style="list-style-type: none"> ・①どのような創意工夫がされているか、②その創意工夫により、自分はどのような雰囲気を感じ取ったか考える。 4 3で考えたことをグループで共有し、考えを深める。 <ul style="list-style-type: none"> ・1～4番それぞれのグループに分かれて考える。 5 歌詞の内容や比較聴取、グループでの話し合いをもとに、9～12小節の歌い方を自分なりに創意工夫する。 <ul style="list-style-type: none"> ・①聴く人にどのような情景や気持ちを想像してもらいたいか、②どのように歌で表現するのか考える。 6 自分の考えた表現をグループで共有し、考えを広げる。 7 工夫した表現を生かして歌えるように、各自練習をする。 8 グループ内で、工夫した表現を生かし、発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・AとBは、強弱の差に加え、速度の差もあるため、生徒が速度について意見を挙げる可能性も留意する。 ・ここで出た考えをいくつか全体で共有する。 ・最も工夫してほしいのは強弱についてだが、速度について工夫してもよい。 ●思 (ワークシート) <ul style="list-style-type: none"> ・自分にはなかった他者の考えを生かし、表現を考えてよいと伝える。 ・同じグループの人に聴いてもらうのもよいと伝える。 ●技 (演奏)

終末 (5分)	9 本時の振り返りを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・数人に振り返りを発表してもらう。 ・強弱と歌詞との関わりを考えたことで、どのように変化したか等を書くように促す。
------------	---------------	--

(4) 板書計画

「赤とんぼ」の旋律、強弱に注目し、表現を創意工夫して歌おう。

前時 歌詞の読み取り

- ・だんだん弱くしていく
→切ない気持ち、悲しさ

- ・最後まで強く、堂々と歌う
→良い思い出になった、あたたかい気持ち